

ローカル線はおもしろい。

ローカル線の旅が好きです。同じ鉄道でも普段乗っている JR や阪急電車とは全く違う世界がそこに広がっているからです。そんなわけで、今回取り上げる本は『ローカル鉄道という希望 - 新しい地域再生、はじまる - 』（田中輝美著 河出書房新社 2016 年）です。

このところ、地方のローカル鉄道を舞台に行われているユニークな取組がメディアで取り上げられることが多くなっているように思います。例えば和歌山県には猫の駅長さんがいるそうですが、この本の著者は少し違った視点で全国のローカル鉄道取材しています。

この本には全国 15 のローカル鉄道が登場します。神戸に近いところでは、兵庫県加西市の北条鉄道が取り上げられています。北条鉄道はかつて深刻な赤字に悩み、地域の人たちから「つぶしてもうたらしいのに」と言われてしまうような状況だったそうです。

そんな中で 2011 年、地元出身の新社長が就任して、さまざまな改革に取り組みはじめます。鉄道は地域再生のカギだと考える社長が重視したのは、地域に住む人たちに鉄道事業を「自分ごと」と思って協力してもらうことです。例えば駅の美化に寄付金を募ることから始まり、現在では町のパン屋さんに駅でパンを売ってもらったり（鉄道とコラボした「枕木パン」なるものも売っているらしい）、駅ナカ英会話教室が開かれたりするなど、多彩な取組が行われようになりました。すると、地域住民の利用者が増えたことに加えて、観光客も訪れるようになったそうです。鉄道会社が地域社会を巻き込み、地域一丸となって町の活性化に取り組んでいるのです。

北条鉄道を含め、この本で取り上げられているローカル鉄道の取組に共通していることは「地域社会あつての鉄道」という考えのもと、人々の足としての役割を回復させることを最も重視していることです。どの鉄道もそのために住民や地元企業を巻き込んだ様々な事業に取り組んでいます。この本で取り上げられているローカル鉄道の事例を通じて、現代の地方社会が抱えている問題や、地域活性化に向けた新たな動きについて知ることができます。また、知らない土地に行き、鉄道の旅を楽しんでみたいという気持ちにもなるのではないのでしょうか。



写真は、今年の春に乗った北条鉄道の車内から見た風景です。一両だけのディーゼル車がのどかな田園風景の中をのんびりゴトゴト走ります。乗っているだけで癒し効果がある…かも。